

2025年11月16日 コロサイ3：17－4：1

説教題 「あなたがたは、主キリストに仕えている」

【今日の説教から】

「あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい」。信仰の実践について簡潔に言い表す一言だと思います。

「キリストの名において」。

「私は父の名代(みょうだい)としてまいりました」という時には、その人の代理として、代わりを務めるという意味ですが、「いっさい主イエスの名によって」なすということは、そういうことを言っているのではないのでしょうか。

今日の箇所では、妻へ、夫へ、子供へ、僕へ、僕の主人へ、具体的な命令が書かれています。「仕えなさい・従いなさい」、それが、主にある者にふさわしいこと、主に喜ばれることであると書かれ、「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい」と、17節の「いっさい主イエスの名によってなし…」との言葉が繰り返されます。

主に対するように従うということは、夫や父や、主人もまたそれに見合う者であるべきで、それは神様が私たちを愛してくださるように愛し、いらだたせたり、失望したりしないように励ますことであり、気分次第の横暴ではなくて正しく公平に扱うことであり、それらはすべて神様がまず私たちにお示しくくださったことなのです。「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働く」。それは人を見ずして神様を見て、神様に感謝をお返しして仕え従うことなのです。

序 神様に仕えていただいたように神様に仕える

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

2:10 あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。

2:11 愛する者たちよ。あなたがたに勧める。あなたがたは、この世の旅人であり寄留者であるから、たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい。

2:12 異邦人の中であって、りっぱな行いをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのりっぱなわざを見て、かえって、おとずれの日に神をあがめるようになるだろう。

2:13 あなたがたは、すべて人の立てた制度に、主のゆえに従いなさい。主権者としての王であろうと、

2:14 あるいは、悪を行う者を罰し善を行う者を賞するために、王からつかわされた長官であろうと、これに従いなさい。

2:15 善を行うことによって、愚かな人々の無知な発言を封じるのは、神の御旨なのである。

2:16 自由人にふさわしく行動しなさい。ただし、自由をば悪を行う口実として用いず、神の僕にふさわしく行動しなさい。

2:17 すべての人をうやまい、兄弟たちを愛し、神をおそれ、王を尊びなさい。

2:18 僕たる者よ。心からのおそれをもって、主人に仕えなさい。善良で寛容な主人だけにでなく、気むずかしい主人にも、そうしなさい。

2:19 もしだれかが、不当な苦しみを受けても、神を仰いでその苦痛を耐え忍ぶなら、それはよみせられることである。

2:20 悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神によみせられることである。

2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

3:1 同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとい御言に従わない夫であっても、

3:2 あなたがたのうやうやしく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救に入れられるようになるであろう。

3:3 あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、

3:4 かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである。

3:5 むかし、神を仰ぎ望んでいた聖なる女たちも、このように身を飾って、その夫に仕えたのである。

3:6 たとえば、サラはアブラハムに仕えて、彼を主と呼んだ。あなたがたも、何事にもおびえ臆することなく善を行えば、サラの娘たちとなるのである。

3:7 夫たる者よ。あなたがたも同じように、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住み、いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として、尊びなさい。それは、あなたがたの祈が妨げられないためである。

3:8 最後に言う。あなたがたは皆、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛をもち、あわれみ深くあり、謙虚でありなさい。

3:9 悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。

ローマ 12:10 兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい。

12:11 熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え、

12:12 望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい。

12:13 貧しい聖徒を助け、努めて旅人をもてなしなさい。

12:14 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福して、のろってはならない。

12:15 喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。

12:16 互に思うことをひとつにし、高ぶった思いをいだかず、かえって低い者たちと交わるがよい。自分が知者だと思いがってはならない。

12:17 だれに対しても悪をもって悪に報いず、すべての人に対して善を図りなさい。

12:18 あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。

12:19 愛する者たちよ。自分で復讐をしないで、むしろ、神の怒りに任せなさい。なぜなら、「主が言われる。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する」と書いてあるからである。

12:20 むしろ、「もしあなたの敵が飢えるなら、彼に食わせ、かわくなら、彼に飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃えさかる炭火を積むことになるのである」。

12:21 悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。

1 コリント 7:10 更に、結婚している者たちに命じる。命じるのは、わたしではなく主であるが、妻は夫から別れてはいけない。

7:11 (しかし、万一別れているなら、結婚しないでいるか、それとも夫と和解するかしなさい)。また夫も妻と離婚してはならない。

7:12 そのほかの人々に言う。これを言うのは、主ではなく、わたしである。ある兄弟に不信者の妻があり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。

7:13 また、ある婦人の夫が不信者であり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。

7:14 なぜなら、不信者の夫は妻によってきよめられており、また、不信者の妻も夫によってきよめられているからである。もしそうでなければ、あなたがたの子は汚れていることに

なるが、実際はきよいではないか。

7:15 しかし、もし不信者の方が離れて行くのなら、離れるままにしておくがよい。兄弟も姉妹も、こうした場合には、束縛されてはいない。神は、あなたがたを平和に暮させるために、召されたのである。

7:16 なぜなら、妻よ、あなたが夫を救いうるかどうかわかるか。また、夫よ、あなたも妻を救いうるかどうかわかるか。

7:17 ただ、各自は、主から賜わった分に応じ、また神に召されたままの状態にしたがって、歩むべきである。これが、すべての教会に対してわたしの命じるところである。

ヨハネ 13:1 過越の祭の前に、イエスは、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時がきたことを知り、世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。

13:2 夕食のとき、悪魔はすでにシモンの子イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていたが、

13:3 イエスは、父がすべてのものを自分の手にお与えになったこと、また、自分は神から出てきて、神にかえろうとしていることを思い、

13:4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいをとって腰に巻き、

13:5 それから水をたらいに入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。

13:6 こうして、シモン・ペテロの番になった。すると彼はイエスに、「主よ、あなたがわたしの足をお洗いになるのですか」と言った。

13:7 イエスは彼に答えて言われた、「わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう」。

13:8 ペテロはイエスに言った、「わたしの足を決して洗わないで下さい」。イエスは彼に答えられた、「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる」。

13:9 シモン・ペテロはイエスに言った、「主よ、では、足だけではなく、どうぞ、手も頭も」。

13:10 イエスは彼に言われた、「すでにからだを洗った者は、足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなからだから。あなたがたはきれいなのだ。しかし、みんながそうなのではない」。

13:11 イエスは自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みんながきれいなのではない」と言われたのである。

13:12 こうして彼らの足を洗ってから、上着をつけ、ふたたび席にもどって、彼らに言われた、「わたしがあなたがたにしたことがわかるか」。

13:13 あなたがたはわたしを教師、また主と呼んでいる。そう言うのは正しい。わたしはそのとおりである。

13:14 しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、

あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。

13:15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。

13:16 よくよくあなたがたに言うておく。僕はその主人にまさるものではなく、つかわされた者はつかわした者にまさるものではない。

13:17 もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたはさいわいである。

マタイ 20:20 そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かをお願いした。

20:21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはおあなたの右に、ひとは左にすわれるように、お言葉をください」。

20:22 イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっていない。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」。彼らは「できます」と答えた。

20:23 イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになる。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によって備えられている人々だけに許されることである」。

20:24 十人の者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。

20:25 そこで、イエスは彼らと呼ばせて言われた、「あなたがたの知っているとおりに、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。

20:26 あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、

20:27 あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。

20:28 それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

1 ヨハネ 4:7 愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。

4:8 愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

4:9 神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。

4:12 神を見た者は、まだひとりもない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわた

私たちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

ピレモン 1:8 こういうわけで、わたしは、キリストにあってあなたのなすべき事を、きわめて率直に指示してもよいと思うが、

1:9 むしろ、愛のゆえに願う。すでに老年になり、今またキリスト・イエスの囚人となっているこのパウロが、

1:10 捕われの身で産んだわたしの子供オネシモについて、あなたに願う。

1:11 彼は以前は、あなたにとって無益な者であったが、今は、あなたにも、わたしにも、有益な者になった。

1:12 彼をあなたのもとに送るかえす。彼はわたしの心である。

1:13 わたしは彼を身近に引きとめておいて、わたしが福音のために捕われている間、あなたに代って仕えてもらいたかったのである。

1:14 しかし、わたしは、あなたの承諾なしには何もしたくない。あなたが強制されて良い行いをするのではなく、自発的にすることを願っている。

1:15 彼がしばらくの間あなたから離れていたのは、あなたが彼をいつまでも留めておくためであったかも知れない。

1:16 しかも、もはや奴隷としてではなく、奴隷以上のもの、愛する兄弟としてである。とりわけ、わたしにとってそうであるが、ましてあなたにとっては、肉においても、主にあって、それ以上であろう。

1:17 そこで、もしわたしをあなたの信仰の友と思ってくれるなら、わたし同様に彼を受け入れてほしい。

1:18 もし、彼があなたに何か不都合なことをしたか、あるいは、何か負債があれば、それをわたしの借りにしておいてほしい。

1:19 このパウロが手ずからしるす、わたしがそれを返済する。この際、あなたが、あなた自身をわたしに負っていることについては、何も言うまい。

皆様、おはようございます。

1 1月も半ばに入り、朝晩が冷え込んでまいりました。お元気にお過ごしでしたでしょうか。今年も残すところ1か月半。祈りつつ、主をあがめるクリスマスの時を待ち望みたく思います。

先週もご一緒にお読みしましたが、17節の御言葉です。

3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

信仰の実践について簡潔に言い表す一言だと思います。

「キリストの名において」。

「私は父の名代(みょうだい)としてまいりました」という時には、その人の代理として、代わりを務めるという意味ですが、「いっさい主イエスの名によって」なすということは、そういうことを言っているのではないのでしょうか。

ヨハネ 14:8 ピリポはイエスに言った、「主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します」。

14:9 イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか。

14:10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。

14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

14:17 それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。

14:18 わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。

マタイ 3:16 イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。

3:17 また天から声があつて言った、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

(新改訳) 3:17 また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたし

はこれを喜ぶ。」

ルカ 10:1 その後、主は別に七十二人を選び、行こうとしておられたすべての町や村へ、ふたりずつ先におつかわしになった。

10:2 そのとき、彼らに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。

10:3 さあ、行きなさい。わたしがあなたがたをつかわすのは、小羊をおおかみの中に送るようなものである。

ヨハネ 20:19 その日、すなわち、一週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をみなしめていると、イエスがはいってきて、彼らの中に立ち、「安かれ」と言われた。

20:20 そう言って、手とわきとを、彼らにお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。

20:21 イエスはまた彼らに言われた、「安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす」。

20:22 そう言って、彼らに息を吹きかけて仰せになった、「聖霊を受けよ。

20:23 あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう」。

父なる神様は御子をこよなく愛して「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」と語られ、イエス様と共にいられてその願うところをことごとくお聞きになられました。イエス様はご自分がいつくしみ深い神様の元から来られたことを示すために、祈り、奇跡をなさいました。しかしそれはイエス様ご自身がなさったことではなくて、内におられる父なる神様がなさったことでした。

ヨハネ 5:8 イエスは彼に言われた、「起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい」。

5:9 すると、この人はすぐにいやされ、床をとりあげて歩いて行った。その日は安息日であった。

5:10 そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った、「きょうは安息日だ。床を取りあげるのは、よろしくない」。

5:11 彼は答えた、「わたしをなおして下さったかたが、床を取りあげて歩けと、わたしに言われました」。

5:12 彼らは尋ねた、「取りあげて歩けと言った人は、だれか」。

5:13 しかし、このいやされた人は、それがだれであるか知らなかった。群衆がその場に



たので、イエスはそっと出て行かれたからである。

5:14 そののち、イエスは宮でその人に出会ったので、彼に言われた、「ごらん、あなたはよくなった。もう罪を犯してはいけない。何かもっと悪いことが、あなたの身に起るかも知れないから」。

5:15 彼は出て行って、自分をいやしたのはイエスであったと、ユダヤ人たちに告げた。

5:16 そのためユダヤ人たちは、安息日にこのようなことをしたと言って、イエスを責めた。

5:17 そこで、イエスは彼らに答えられた、「わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである」。

5:30 わたしは、自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして、わたしのこのさばきは正しい。それは、わたし自身の考えではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである。

5:31 もし、わたしが自分自身についてあかしをするならば、わたしのあかしはほんとうではない。

5:32 わたしについてあかしをするかたはほかにあり、そして、その人がするあかしがほんとうであることを、わたしは知っている。

5:33 あなたがたはヨハネのもとへ人をつかわしたが、そのとき彼は真理についてあかしをした。

5:34 わたしは人からあかしを受けないが、このことを言うのは、あなたがたが救われるためである。

5:35 ヨハネは燃えて輝くあかりであった。あなたがたは、しばらくの間その光を喜び楽しむとした。

5:36 しかし、わたしには、ヨハネのあかしよりも、もっと力あるあかしがある。父がわたしに成就させようとしてお与えになったわざ、すなわち、今わたしがしているこのわざが、父のわたしをつかわされたことをあかししている。

ヨハネ 10:25 イエスは彼らに答えられた、「わたしは話したのだが、あなたがたは信じようとしない。わたしの父の名によってしているすべてのわざが、わたしのことをあかししている。

10:26 あなたがたが信じないのは、わたしの羊でないからである。

10:27 わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。

10:28 わたしは、彼らに永遠の命を与える。だから、彼らはいつまでも滅びることがなく、また、彼らをわたしの手から奪い去る者はない。

10:29 わたしの父がわたしに下さったものは、すべてにまさるものである。そしてだれも父のみ手から、それを奪い取ることはできない。

10:30 わたしと父とは一つである」。

10:31 そこでユダヤ人たちは、イエスを打ち殺そうとして、また石を取りあげた。

10:32 するとイエスは彼らに答えられた、「わたしは、父による多くのよいわざを、あなたがたに示した。その中のどのわざのために、わたしを石で打ち殺そうとするのか」。

10:33 ユダヤ人たちは答えた、「あなたを石で殺そうとするのは、よいわざをしたからではなく、神を汚したからである。また、あなたは人間であるのに、自分を神としているからである」。

10:34 イエスは彼らに答えられた、「あなたがたの律法に、『わたしは言う、あなたがたは神々である』と書いてあるではないか。

10:35 神の言を託された人々が、神々といわれておるとすれば、(そして聖書の言は、することがあり得ない)

10:36 父が聖別して、世につかわされた者が、『わたしは神の子である』と言ったからとて、どうして『あなたは神を汚す者だ』と言うのか。

10:37 もしわたしが父のわざを行わないとすれば、わたしを信じなくてもよい。

10:38 しかし、もし行っているなら、たとえわたしを信じなくても、わたしのわざを信じるがよい。そうすれば、父がわたしにおり、また、わたしが父におることを知って悟るであろう」。

ヨハネ 11:11 そう言われたが、それからまた、彼らに言われた、「わたしたちの友ラザロが眠っている。わたしは彼を起しに行く」。

11:12 すると弟子たちは言った、「主よ、眠っているのですしたら、助かるでしょう」。

11:13 イエスはラザロが死んだことを言われたのであるが、弟子たちは、眠って休んでいることをさして言われたのだと思った。

11:14 するとイエスは、あからさまに彼らに言われた、「ラザロは死んだのだ」。

11:15 そして、わたしがそこにいあわせなかったことを、あなたがたのために喜ぶ。それは、あなたがたが信じるようになるためである。では、彼のところに行こう」。

11:32 マリヤは、イエスのおられる所に行ってお目にかかり、その足もとにひれ伏して言った、「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう」。

11:33 イエスは、彼女が泣き、また、彼女と一緒にきたユダヤ人たちも泣いているのをごらんになり、激しく感動し、また心を騒がせ、そして言われた、

11:34 「彼をどこに置いたのか」。彼らはイエスに言った、「主よ、きて、ごらん下さい」。

11:35 イエスは涙を流された。

11:36 するとユダヤ人たちは言った、「ああ、なんと彼を愛しておられたことか」。

11:37 しかし、彼らのある人たちは言った、「あの盲人の目をあけたこの人でも、ラザロを死なせないようには、できなかったのか」。

11:38 イエスはまた激しく感動して、墓にはいられた。それは洞穴であって、そこに石がはめてあった。

11:39 イエスは言われた、「石を取りのけなさい」。死んだラザロの姉妹マルタが言った、「主よ、もう臭くなっております。四日もたっていますから」。

11:40 イエスは彼女に言われた、「もし信じるなら神の栄光を見るであろうと、あなたに言ったのではないか」。

11:41 人々は石を取りのけた。すると、イエスは目を天にむけて言われた、「父よ、わたしの願いをお聞き下さったことを感謝します」。

11:42 あなたがいつでもわたしの願いを聞きいれて下さることを、よく知っています。しかし、こう申しますのは、そばに立っている人々に、あなたがわたしをつかわされたことを、信じさせるためであります」。

11:43 こう言いながら、大声で「ラザロよ、出てきなさい」と呼ばわれた。

11:44 すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。イエスは人々に言われた、「彼をほどいてやって、帰らせなさい」。

11:45 マリヤのところにて、イエスのなさったことを見た多くのユダヤ人たちは、イエスを信じた。

ヨハネ 14:10 わたしが父におり、父がわたしにおられることをあなたは信じないのか。わたしがあなたがたに話している言葉は、自分から話しているのではない。父がわたしのうちにおられて、みわざをなさっているのである。

14:11 わたしが父におり、父がわたしにおられることを信じなさい。もしそれが信じられないならば、わざそのものによって信じなさい。

14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

イエス様は遣わされたものとしてその身をもって、その命と人生において神様のご栄光を現わされました。主は父なる神様のご意志に忠実に従い、祈り、行い、主は恵みに富んでおられました。

ヨハネ 1:9 すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。

1:10 彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。

1:11 彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった。

1:12 しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

1:13 それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。

1:14 そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた。

神様は本当に私たちにとって恵み深いお方であり、それは御子イエス様をお与えになられるほどでした。その背を愛する父なる神様の御心を、御子は忠実に果たしました。その祈りが聞かれないはずがありません。見たこともないことが起こる。しかしそれは神様にとっては不可能なことではないのです。私たちが不可能だと思うことを主は成してくださいます。そういう神様を私たちもまた信じるのです。そして、愛され、祝され、恵まれ、満たされて、この恵みと主の御力を、私たちも遣わされて証しするのです。このいのちと時間、人生を捧げて父なる神様のご栄光とみ恵みを伝えるのです。そのように生きる私たちの祈りは聞かれるのです。

3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

父なる神様の名代として来られたイエス様の名代として生きる。一切を主イエス様の道をたどるものとして生きる。これがキリスト教です。

3:18 妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。

3:19 夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。

急に話題は身近なものとなり、家庭の中のこと、妻と夫、両親と子、僕(奴隷)と主人との間の話になります。

夫、両親、主人という三者のなかに、共通する一人の人を考えることが出来るかもしれません。そして女性からしたら母、そしてごく珍しいケースとして奴隷の女主人という設定もあるかもしれません。

夫に妻は仕え、子は母共々両親に従い、僕も主人に従いなさいと書かれています。

一方で夫には妻を愛し、つらく当たってはならないとあり、父には子をいら立たせてはいけない、心がいじけるから、心がくじけて落胆し、意気消沈してしまうからとあり、主人には

僕を正しく公平に扱いなさいとあります。

ここで次の2節が輝いています。

3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

3:24 あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。

妻よ、夫に従いなさいなどと言いますと、何であんなダメ亭主に！！などというお言葉があるかもしれません。父に従えなどと聞いても、なんであんなくそ親父になんて言葉が聞こえてくるかもしれません。どうしてあのひどい上司に、などという言葉も世の中あまたに聞こえてきます。

ここで聖書の教えを頂きたいのです。「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように」するのです。

その目の前にいる人に対して仕え従う、その前に、その人の上にいる神様に仕え、従うと思えばどうでしょうか。

神様は私たちを愛し、ねぎらい、心配して常に支えてくださいます。決していらだたず、忍耐をもって守り養ってくださいます。礼を失することをせず、つらく当たることはありません。妻だから、子供だから、夫や父や主人より劣るものだからと言って居丈高に高圧的に首根っこを押さえて横暴を働いたり、強いることはなさいません。いらだたせたり、心をくじかせ意気消沈させるお方ではありません。このお方に私たちはお仕えするのです。そう思えば、その方の名代として私たちの前に立つ人についても私たちは仕え従うことが出来るのではないのでしょうか。

3:22 僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。

3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

3:24 あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。

愛と恩義のあるイエス様のためならば、私たちは目の前にいる人にも使えることが出来るのではないのでしょうか。

3:25 不正を行う者は、自分の行った不正に対して報いを受けるであろう。それには差別扱

いはない。

4:1 主人たる者よ、僕を正しく公平に扱いなさい。あなたがたにも主が天にいますことが、わかっているのだから。

自分の地位や権威をかさに着て、神様の御心を逸脱して傲慢を尽くす人たちのためには神様の報いが待っているのです。すべてを知っておられる神様は天におられ、ご自身の御心を成そうと願っておられ、御旨にかなう人に祝福を授けられます。

私たちはこの神様を喜び、そして神様に喜ばれるように今週も業を行い、この御言葉を全うしたいと願うのです。

3:22 僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。

3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。

3:24 あなたがたが知っているとおりの、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。神様はいつも私たちを愛し、つらく当たらず、いらだたせず、落胆、失望させず、横暴ではなくて正しく公平に扱ってくださり、本当にありがとうございます。あなたはそういうお方ですから、私たちは恐れかしこみ感謝し、真心から仕え、従いうことが出来ます。「人に対してではなく、主に対してするように、心から」周囲の方々に仕えることが出来るようにお導きください。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン